

ひょうご

県知協

NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行 一般社団法人
兵庫県知的障害者施設協会
〒651-0062
神戸市中央区坂口通 2 丁目 1-1
兵庫県福祉センター5階 502 号室
TEL (078) 862-6026
FAX (078) 862-6082
E-mail: hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp
発行責任者 蓬 萊 和 裕
印刷所 交友印刷株式会社

第 50 回 近畿地区知的障害関係施設職員研修会を終えて

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会

会長 蓬 萊 和 裕

昨年度の和歌山大会に続く第 50 回近畿地区知的障害関係施設職員研修会の兵庫大会が、去る平成 26 年 3 月 13、14（木・金）の両日にわたって神戸メリケンパークオリエンタルホテルを会場として盛大に開催されました。今大会の規模は、申込参加者 304 名に、来賓 5 名、講師 6 名、主催事務局 5 名を加えた 320 名となり、交流会参加者が 117 名でありました。5 つの分科会参加者数は、42 名（第 1）、38 名（第 2）、117 名（第 3）、73 名（第 4）、33 名（第 5）という結果でした。

このたびは、『今、そしてこれからは、輝ける利用者の暮らしを実現させよう』との全体テーマのもと、利用者が輝きをもって成長し、活動し、生活し、生涯を全うするための支援の在り方と、職員も自らの働きを輝かせて充実した福祉人生の歩み方について研究・討議いたしました。

2 日間のプログラムの概要は、次の通りです。

1 日目 = 土井 近畿地区会長の主催者挨拶、蓬萊 兵庫県知協会長の開催県挨拶、兵庫県の崎山 障害福祉局長と神戸市の衣川障害福祉部長の来賓挨拶、橋 知福協会長の中央情勢報告、5 つの分科会、交流会（ドリーム甲子園等の利用者による太鼓演奏、橋 会長のウクレレ漫談、クイズ）

2 日目 = 山口県立大学の重岡 修 准教授による基調講演、蓬萊 近畿地区副会長の閉会挨拶、安本 大阪知福協会長の次期開催県挨拶

各分科会の内容の詳細を下に掲げました。次ページ以降の報告記事をご参照ください。



	分科会分野	講師	講師の内容	担当県	事例発表施設	事例発表者
1	児童の発達・成長を見守る	岡山大学大学院 佐藤 暁 氏	コメンテーター	兵庫	赤穂精華園	小山 美代 氏
				京都	洛西愛育園	佐藤夕佳子 氏
2	就労・生産活動と創作への取り組み	株式会社テミル 船谷 博生 氏	講演	大阪	支援センターさくら	平澤 透 氏
				京都	あしたーる	垣村 知哉 氏
3	障害者支援施設や日中活動支援施設・地域での生活	自閉症 e サービス 中山 清司 氏	講演	滋賀	しがらき会	杉本 宏樹 氏 古谷 佳大 氏
				奈良	ゆらくの里	杉本 昌樹 氏
4	重度・高齢化を支える介護、医療と栄養	特養はちぶせの里 中野 穰 氏	講演	和歌山	杉の郷えぼし寮	尾崎 亮介 氏
				兵庫	愛心園	植田美英子 氏
5	支援スタッフ	西片医療福祉研究会 山田美代子 氏	スーパーバイザー			

第1分科会**児童の発達・成長を見守る
「明日を輝かせる療育の充実のために」**

三田谷学園

施設長 高野 康彦

岡山大学大学院 佐藤 暁教授を講師に迎え、参加者 43 人のグループワーク型の研修としました。

まずは実践発表①「居住環境が知的障がい児の生活行動にもたらす影響について」を兵庫県 赤穂精華園 小山児童支援課長より発表していただきました。老朽化に伴う児童棟の建替え事業を通して取り組まれた「個室化とユニット化の導入」について、導入前と導入後の入所児童と職員に与えた影響とその効果をデータ化し分析され、また住居環境の変化による効果から感じ取られた要因を支援のあり方にまで踏み込んで研究された内容でした。

続いて実践発表②「重度自閉症スペクトラム児の療育」として、京都府 洛西 愛育園 佐藤指導員から重度自閉症児の日常の行動や表情を細かく観察し、それぞれが持つ独特の感性や特性を探り、その世界観を共有、共感することで遊びや生活上の工夫された実践を発表していただきました。また幼児期、発

達期には生理的レベルのアプローチの大切さにも触れ、家庭との連携で心地よい状態で療育が進められるための取り組みを発表されました。



後半は佐藤教授の進行で、実践発表を踏まえたグループ討議がなされました。教授は発表 2 題についての学びを整理され、さらに掘り下げた疑問点や課題の共有に導いていただき、幼児・児童期における育ちの大切さ、療育や環境の与える効果などを講演していただきました。

本分科会は、こども達が心地よく安心して日々の生活を送るための人的、物的環境の重要性に視点を当てた支援のあり方を共に学ぶ機会となり、充実した研修会となりました。

第2分科会**就労・生産活動と創作への取り組み
「輝きを放つ就労・生産活移動を目指して」**

武庫川すずかけ作業所

施設長 中島 忠男

株式会社テミル代表取締役の船谷氏から、現在までの福祉の流れから B 型事業所の現状、ディーセントワークとは？から、障がいのある方の特性を活かしての実践例と実際に取り組むテミルプロジェクトからパティシエと絵本作家とのコラボ事例を話していただきました。

事例発表は大阪手をつなぐ育成会の支援センター さくらの平澤課長からスワンカフェ&ベーカリー (A 型) と洗車事業 (移行支援) の事業の、特性を活かした実践と就労の事例を、あしたー工房の垣

村氏からは地元との繋がりと特性を活かしたオリジナル商品 (黒豆カレー等) 作りの事例発表を行いました。ディスカッションでは他職種とのコラボすることで得て学んだこと、また実践の中で職員がどのように変化していったのかを話し、最後に“明日からできる実践”を講演者・発表者からそれぞれコメントをいただき、障がいのある方の特性を理解し活かすこと、専門家とコラボし活かすことなどを確認しました。少人数ではありましたが有意義な分科会でした。

第3分科会**障害者支援施設や日中活動支援施設・地域での生活
「利用者が輝く豊かな生活、暮らしとは」**

杭瀬福成園

施設長 宮下 哲

標記テーマのもと自閉症 e サービス理事長 中山清司氏より「入所施設の役割と生活の組み立て」のご講演をいただき、慣例的な古い施設文化、特性理

解のない施設職員から利用者への悪しき声のかけ方、なぜ問題行動は減らないのか等、我々支援者側が「考え方」や「やり方」を改め、相手 (利用者)

を理解していかなければ「豊かな生活」は提供できないと話されました。氷山モデルでの問題行動の説明や、より具体的な支援のアプローチ方法をご提示いただき、それらの流れから評価の大切さがわかりました。

事例発表 1 題目として、滋賀県 社会福祉法人 しがらき会 杉本 宏樹氏と古谷 佳大氏が「町で暮らす」について発表されました。池田 太郎先生の『この人たちの幸せは、この人たちが社会に溶け込んでいく姿にある』という思いを引き継ぎ、信楽の地域そのものを多様な受け皿として展開されていることや、ハード面での安全・安心、ソフト面ではネットワークを構築することで、専門職だけではなく地域ぐるみでサポートできるようにされている報告がありました。

事例発表 2 題目として、奈良県 社会福祉法人 以和貴会 ゆらくの里 杉本 昌樹氏より、「自閉症の日中活動を模索して」～eサービスとの連携から観え

てくるもの～について発表していただきました。具体的に一人の利用者の事例を通して、eサービスを導入する以前の問題行動や支援、導入



後はどのように問題行動が軽減されたか、またそれらに関する支援方法は、どのようにプラスへと変化し利用者や職員へ波及していったかを、写真をたくさん用いての報告がありました。

全体ディスカッションでは、昨今よく耳にします「合理的配慮」に焦点をあて、中山氏から、【合理的配慮の欠如＝差別】の補足説明を受け、我々専門職が目指すべき方向性を全体で確認し合いました。それらを踏まえることで、『利用者が輝く豊かな生活、暮らし』に結びつくのではと感じ、有意義な研修会となりました。

第4分科会

重度・高齢化を支える介護、医療と連携 「輝いた生涯を全うするために」

みつみ学苑

施設長 義 積 由紀子

入所施設の課題である重度化と高齢化については、参加施設の関心事であり 74 名の参加者があった。ご講演をいただいた「はちぶせの里」中野 稜施設長は、特別養護老人ホームの施設長として、我が国の高齢者の動向や都市部と地方の問題、ユニット型特養での高齢者の生活を丁寧に説明して下さり、高齢者の方の穏やかな生活が垣間見えるようだった。高齢者と障害者はおのずとライフステージが違うが、ご利用者の存在価値を認めること、役割作りをして自尊心を高めることこそよい支援なのだと言われた。また、たとえ身体的、心理的、社会関係的、経済的に誰かに依存していたとしても、大切なのは人格的に自立した存在として、社会に認められているかどうかであるとも話された。

事例発表では、和歌山県の入所ご利用者を基本的に 45 歳以上に限定されている施設の関わり方や取組の紹介、兵庫県の施設で看取りを行ったケースの

2 例だった。和歌山県の事例では、平均年齢 68 歳の施設を紹介されたが、ゆったりとした時間の中で、日課やクラブなどに取り組みされていた。兵庫県の事例では、施設で看取りを行ったケースであったが、高齢者施設のように終末期の問題が常態化しているわけではないので、手さぐりだったことなどを伺った。家族や嘱託医、看護師や支援員など多職種の連携や 24 時間の体制をどう支えるか、不安に思う支援員のフォローをどうするかなど、実践を通していろいろな課題が浮き彫りになっていた。

発表の後、短時間ではあったが質疑応答の時間を設けたが、支援現場の職員の勤務体制など細かな質問もでていた。入所施設の課題である重度化と高齢化は、その時にどう対応するかよりも、日々その人らしく尊厳をもって生活できているかが問題であって…その行き着くところが人生の最終章なのだと改めて感じる分科会であった。

第5分科会

支援スタッフ 「職員が輝いて仕事に取り組むには」

愛心園

課長 中 川 義 之

「西片医療福祉研究会」代表の山田 美代子氏を講師に招いて、33 名の参加がスーパービジョンにつ

いて学びました。今回は「スーパービジョン理論の枠組みや考え方の理解を目的に、自身のやり方を検

討するためのひとつのサンプルとするために」と講師より言われ、基本の学習に重きを置いて行われました。研修で学んだことを少しここで紹介すると、

- ・かかわる一人ひとりが持っている力を発揮できるように組織体制を整えていく。
- ・人材育成と人材活用にスーパービジョンが必要である。
- ・スーパービジョンの定義は職員を支援するためのシステムであり、支える過程である。

福祉現場は人材確保が大きな課題と以前から言われています。この仕事の意義を効果的に部下に伝え、システムを整えていく実践が、中堅以上の職員には

求められます。今回スーパービジョンについて学ぶ機会を得て、自身の仕事を振り返る機会となりました。

講師の山田先生は、研修会の後の懇親会でも、5分科会参加者全員に接して意見や感想を聞いて回っておられました。人との関係を大切に、人を大事にすることが基本にあるのだらうと感じました。



兵庫県委託 障害者施設職員虐待未然防止支援事業の実施について

第1期：平成 25 年 4 月 1 日から 1 年間 / 第2期：平成 26 年 4 月 1 日から 1 年間

平成 24 年 10 月の障害者虐待防止法の施行により、虐待のない社会づくりに拍車がかかるなか、平成 25 年度、当県知協は兵庫県より「障害者施設における虐待未然防止事業【緊急雇用事業】」の委託を受けて、以下の通り管理者等を対象とした研修会を開催するなどして、障害者虐待の未然防止を図るべく取り組みました。

【1. サビ管・中堅職員対象の虐待防止研修会】

去る 1 月 27 日（月）13：15～17：00、県福祉センター障害者に対する権利擁護と虐待防止の理念の深化と法規制が進む中であって、なおも絶えることのない施設での虐待事件を鑑み、施設の職員集団で中核的役割を担うサビ管や中堅職員を対象として開催しました。ルーテル学院大学の西原雄次郎教授を講師に迎え、参加型の研修とするためグループディスカッションを組み込みました。参加者の施設現場での虐待撲滅への覚悟が問われる内容でした。（参加者 61 名）



【2. 障害者虐待未然防止施設長研修会】

去る 3 月 20 日（木）13：30～16：35、県福祉センター今年度、県知協の会員施設で明るみに出た人権侵害やリスクマネジメントの事案について現場からの経過と事後対応の中から学び取ったものを伝えてもらい、施設長・所長等管理者や法人役職者が繰り返してはならない教訓として研修する機会として企画しました。

県委託の第2期目となる平成 26 年度は、緊急雇用事業枠を離れて「障害者施設職員虐待未然防止支援事業」として次のような企画を考えています。

1. 虐待未然防止アドバイザー（仮称）等の施設等への定期巡回による実地指導
虐待未然防止に関するマニュアルやチェックリストなどを資料として、施設等を訪問し、訪問先での実地指導を行います。
2. 施設等職員からの個別・具体的な相談に対して、専門的見地からのアドバイスを実施
相談事例への助言指導の他、施設内研修についてのアドバイス等を行います。
3. 協会顧問弁護士の分析・見解の共有
県知協に寄せられた相談案件への顧問弁護士の説明や法的見解を会員と共有を図り、事例として積み上げて整理します。




神戸市知的障害者施設連盟

事務局長 正心 徹

神戸市知的障害者施設連盟の平成 25 年度の後半期は、定例となった事業の充実に加え、新しい事業の実施がありました。以下に紹介してまいります。

12 月 23 日に「こうべ障害者音楽フェア 2013 ジョイフルコンサート」(障害のある人の音楽活動の発表の場として、また障害のある人もない人も音楽を通じて感動を分かち合う交流の場として、2007 年より毎年開催)がありました。主催の「こうべ障害者音楽フェア実行委員会」委員長に松端会長が就任し、プロ・アマチュアの音楽を“神戸新聞松方ホール”で開催しました。当日は 1, 2 階席ともに満席で、立ち見が出るほどの盛況でした。(現在、次年度の出演者を募集中)

1 月 26 日。今年で 15 回目となる「神戸市知的障害者合同レクリエーション：ふれあいステージ (神戸市手をつなぐ育成会と共催)」が、神戸文化ホール中ホールで、500 名を超える参加者で盛り上がりました。内容は、歌のステージと踊りのステージの二部構成で、「歌のステージ」では、ヴォーカル・ピアノ・リコーダ・パーカッションによる“う・た・ね・た 2014 スペシャルユニット”、息もぴったり、会場いっぱい拍手があふれ、引き込まれるステージでした。「踊りのステージ」は、三田エイサー喜心伝で、それには、舞うものが見るものと一体になり、三線の音色と太鼓の響きに魂を揺さぶられ、元気になってほしいという思いが込められているそうです。

迫力ある舞台に、会場の参加者も、思わず通路で踊りだす方もおられ、舞台と会場とが一体となったステージが繰り広げられました。

3 月 1 日、神戸市障害者スポーツ振興協会と共催で、「こうべ・パラ・スポーツ・フェスティバル 2014」がしあわせの村内で、10 の種目会場に分かれて開催されました。当連盟が主担当となる「絆リレー」は、これまでの駅伝競走に替わり、「タイムレース」と自己申告による目標タイムどおり走ることをルールとした「ぴったんこタイムレース」を企画し、参加者(利用者・職員)60 名と応援 40 名の約 100 名の方が参集され、無事終了しました。その後の「走り方教室」にも参加いただきました。運営は、松端会長をはじめ役員と、森井職員部会長、丸尾スポーツ委員、他職員部会役員によって好評の内に予定どおり実施できました。また、会員事業所の協力を得て、他の会場への応援職員も派遣できました。

職員部会の今年度後半期を振り返りますと、「研修委員会」では、11 月 1 日「栄養士情報交換会」。11 月 18 日「感染症研修会」。11 月 20 日職員研修会①「障害者の地域生活について」。1 月 24 日職員研修会②「これからの福祉職員に本当に必要な力」。「スポーツ委員会」では、10 月 12～14 日全国障害者スポーツ大会東京大会引率。12 月 7 日 草フットサル大会(市知連加盟施設の職員によるフットサル大会)。3 月 1 日「絆リレー大会」。3 月 23 日「みんなのボウリング大会(次年度の全国大会の選手選考をかねて開催)」と、多彩な活動を行いました。




社会福祉法人 三田谷治療教育院

佐伯 肇

平成 25 年度の阪丹但地区は研修会を中心とした活動をしています。

去る平成 26 年 1 月 27 日(月)には伊丹市にある「協同の苑 さつき」において太田篤志先(こども発達さぼーとセンターのぼろ責任者・姫路獨協大学医療保健学部客員教授)による「体験を通して学ぶ障がい特性・感覚特性・相互関係」と題して研修会を開催いたしました。

当日は約 60 名の参加者が、主にスヌーズレンについて、『オランダ語のスヌッフレン(探索)とドゥーズレン(非常に心地よい雰囲気)の造語で、どんな人もありのまま受け止められ、自分で選び、自分のペースで楽しむ人生の大切な時間であること、「重い障がいのある人は感覚に直接訴える刺激を通して外界を知り楽しむ」という見解から「感覚を刺激するいろいろなものに注目して障がいのある人の自発性とペースを大切にして活動し、支援者も体験を共有するものである」という新しい価値観であること、主眼は楽しむことであり、主役はその

人自身であること、待つことが大切で一緒に活動していくこと、共楽のための時空間である、スヌーズレンに使用する機材・機器はあくまでも歯車で、歯車だけでは回らない、回すのは人である、人がどのようにかわるかである』と講義されました。講義の後、参加者自ら「協同の苑 さつき」の設備をお借りして実際に体験をしました。

参加者からは「スヌーズレンのことを初めて知った」「感覚によって利用者の方々が楽しめるような工夫が沢山あり、出来ることは自分の職場にも持ち帰り活かしていきたい」「計画や目的だけの支援ではなく、感覚や共感を大切にスヌーズレンの考え方はとても大切だと感じた」などの感想が寄せられました。この他に本年度の研修会として、既に新会計基準に移行したみつま福祉会の事務担当者と会計士である前原啓二氏による新会計基準移行研修会、管理職などを対象にNPO法人マザーズサポート協会理事長の喜田菜穂子氏による関係力アップセミナー（叱り方について）、支援員を対象にした自閉症eサービス代表である中山清司氏の自閉症研修と兵庫教育大学の嶋崎まゆみ氏による「ABA（応用行動分析）基礎研修」などを、又、阪神福祉事業団ともタイアップした自閉症事例研修会等を開催しました。



播淡地区の報告



播淡地区 職員代表者会
会長 尾崎 勇一（あかりの家）

今年度も、播淡地区の事業として4つの事業（ばんたん親善運動会 職員研修会 施設長▶職員合同一泊研修 ゆうあい文化祭）を滞りなく実施することができました。毎年、播淡地区として同じ事業を継続して行っていますが、長く続けているのにはそれだけの理由や価値があり、また、同じことを長く続けていくだけの努力といったものが、それぞれの事業に含まれているように思います。

職員代表者会の会長として2年間、それぞれの委員会の動きを取りまとめてきましたが、各事業においてその年その年で様々な工夫や改善が行われ、前年よりも良い事業を行うことを目標に、各委員会が活動している成果が今の播淡地区の姿なのだと思います、だからこそ長く続けていけているのだとも思います。既に来年度に向け、今年度の実施報告を元に、来年度の計画も進んでおります。研修においてはアンケートより要望の多かった知的障害がベースにある統合失調症やうつ、パニック障害関係の研修を精神科医の講義を検討しており、また、親善運動会においては、利用者の高齢化といった課題において、参加競技見直しが行われ、現状2つの競技の変更を検討しているところです。

4つの事業の企画・運営について各委員長をはじめとした委員の自立的な活動により、スムーズな運営が行えていたことには、改めて感謝したいと思います。逆に、委員会活動の積み重ねに比べ、播淡地区の会長としては課題を残す結果となりました。組織づくりを目的に前年度の経過を本年度でしっかりと形にしていくことを自らの課題にしておりましたが、播淡地区職員代表者会の組織確立といった課題において十分な役割を果たすことはできなかったと考えています。本来の仕事である職場での業務に加えて、県知協支援スタッフ委員の活動で職場を離れる回数が多くなり、職場の支援員として、播淡地区の会長として、支援スタッフとして非常に多忙な1年であったように思います。この辺りの活動のバランスについては、個人的な問題とせず、播淡、神戸、阪丹但の3地区との調整、県知的障害者施設協会の部会との動きとの調整が必要になってくるとは思いますが、それぞれの組織が協力し合いよりよい活動が行えるよう、難しい課題はあるとは思いますが前向きに考えていかなければならない部分にも思います。

最後に、2年の任期を終えるにあたり、今後の職員代表会がより組織として効率的かつ有効に機能することを願い、会長以下職員代表者会を引っ張って行く人達へ強いリーダーシップに期待したいと思います。組織とは、変わっていくもの、変えていくものだと思うので、より良いものを求めて、状況に応じ、時代に適した組織として変え続けることを願いたいと思います。

予告 1

平成 26 年度 定期社員総会のお知らせ

日時：平成 26 年 5 月 15 日（木）13：30～16：30 終了予定

場所：兵庫県福祉センター 1F 多目的ホール

このたびの定期社員総会の開催案内は、去る 3 月 3 日に 217 会員施設・事業所に発送し、すでに 3 月 24 日を出席の締切日として現在取りまとめを急いでおります。内容は、恒例の永年勤続職員の表彰、新会員や新たな管理者の紹介に続き、事業報告並びに収支決算と事業計画案や予算案の承認、第 27 期協会役員の選出などですが、平成 26 年度は、障害者虐待未然防止の県委託事業を軸に会員施設からの虐待撲滅とリスク管理の徹底化に寄与する活動と、協会組織の充実と安定化のための基盤整備を考える一年と位置付けて参ります。会員の皆様の多くのご参加とご支援をよろしくお願い申し上げます。なお、総会議案書は 5 月の連休明けには事前送付いたします。当日お忘れなくご持参くださいますようお願いいたします。

予告 2

第 26 回全国グループホーム等研修会が、この夏神戸で開催！

来たる平成 26 年 7 月 24～25 日（木・金）、神戸ポートピアホテルを会場に、全国より 800 人を超える現場職員の参加予定で開催されます。基調講演の演者にロンドン・パラリンピック女子競泳に出場の野村 真波 氏を迎え、座談会と事例発表 2 題ずつを盛込んだ 5 つの分科会構成を考えています。グループホームを巡る最新情報を吸収し、たっぷり語り合う 2 日間となるよう準備しておりますので、地元開催を盛り上げる為にも、兵庫からも多数ご参加ください。

なお、会場では近畿の就労支援・生産活動事業所の製品の展示販売も考えていますので、こちらのエントリーも受け付けます。

公益財団法人 神戸やまぶき財団 の社会福祉助成による ポータブルプロジェクター及び投影機材一式の整備

昨年 6 月に申し込んだ平成 25 年度神戸やまぶき財団社会福祉助成金 27 万円の交付決定通知が去る 12 月に届き、これまで他団体や会員施設からその都度借用していた念願のポータブルプロジェクター関連機材一式を 347,550 円で漸く揃えることができました。コンパクトで軽量のプロジェクターに加え、組立式投影スクリーン、パソコンに接続しなくても立体物やペーパーデータを映し出せる書画カメラまで購入が出来て、神戸やまぶき財団様には心よりお礼を申し上げます。今後の研修等に大いに活用して財団様の恩に報いる活動をして参りたいと思っています。



《日誌抄》

9月	13日	児童発達支援部会	神戸市	兵庫県福祉センター
	18日	第62回兵庫県社会福祉大会	宝塚市	宝塚ホテル
	20日	第3回会長・副会長会	神戸市	県知協事務局
	24日	近畿地区第3回役員会	神戸市	ホテルグランヴィア和歌山
	25日	平成25年度「福祉の集い」	神戸市	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
	28～29日	全国生産活動・就労支援部会職員研修会	北海道	札幌市
	30日	全国グループホーム等研修会会合	神戸市	県知協事務局
10月	12～14日	第13回全国障害者スポーツ大会（東京大会）	東京都	東京都内
	15～16日	相談・就業支援センター	東京都	TOC有明
	17日	支援スタッフ委員会第5回会合	神戸市	県知協事務局
	20日	近畿手をつなぐ育成会（西宮大会）	西宮市	西宮市民会館 アミニティーホール
	23日	第4回役員会	神戸市	兵庫県福祉センター
	28～29日	全国知的障害児発達支援施設運営協議会	青森県	弘前パークホテル
	31～1日	全国会長・事務局長会議	東京都	浜松町東京会館
11月	11日	新任職員研修会	神戸市	兵庫県福祉センター
	22日	第7回神戸市手をつなぐ育成会大会	神戸市	育成会会館
	26～27日	第36回近畿地区知的障害関係施設長会議	大阪府	ハイアットリージェンシー大阪
	28～29日	全国日中活動支援部会職員研修会	愛媛県	松山市総合コミュニティーセンター
	29日	第4回会長・副会長会	神戸市	県知協事務局
12月	9日	全国グループホーム等研修会打合せ	神戸市	神戸ポートピアホテル
	10日	兵庫県社協互助会委員会	神戸市	兵庫県福祉センター
	13日	第5回役員会	神戸市	生田文化会館
	25日	臨時会長・副会長会	神戸市	県知協事務局
	26日	日本知福協 政策委員会副委員長 河原氏特別講演会	京都市	メルパルク京都
	27日	仕事納め	神戸市	県知協事務局
	1月	6日	兵庫県新年交礼会	神戸市
16日		平成26年賀詞交換会	神戸市	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
21日		兵庫県障害者福祉課主催虐待研修会	神戸市	兵庫県民会館 けんみんホール
21～22日		地域支援セミナー	東京都	TOC有明
23日		市知連新春交歓会	神戸市	楠公会館
27日		県知協 権利擁護委員会虐待防止研修会	神戸市	兵庫県福祉センター
30日		第5回会長・副会長会	神戸市	県知協事務局
30～31日		障害者支援施設部会全国大会	福岡県	ホテルニューオータニー博多
31日		第9回近畿地区GH・CH研修会	高槻市	高槻現代劇場
2月		6日	第8回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会エントリー説明会	神戸市
	13～14日	第50回近畿地区知的障害関係施設職員研修会	神戸市	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
	21日	第6回役員会	神戸市	兵庫県福祉センター
3月	5～6日	平成25年度部会協議会（日本知的障害者福祉協会主催）	東京都	TFT（東京ファッションタウン）ビル
	11日	兵庫県社協互助会委員会	神戸市	兵庫県福祉センター
	12日	平成25年度地域支援部会研修会（第1回）	神戸市	あすてっぶ神戸
	17日	第6回会長・副会長会	神戸市	県知協事務局
	19日	近畿地区第4回役員会	神戸市	ホテルグランヴィア和歌山
	20日	県知協 障害者虐待未然防止施設長研修会	神戸市	兵庫県福祉センター
	26日	平成25年度地域支援部会研修会（第2回）	神戸市	兵庫県福祉センター

編集
後記

2月に兵庫の担当で開催した近畿地区職員研修会を特集記事として構成しましたので、発行が年度末間際になってしまいましたが、ともかくも第80号をお届けします。虐待の未然防止に向けた研修や指導性が当協会に求められており、次年度は中堅職員をはじめとする研修の充実を目指します。タイムリーな情報提供のために県知協のホームページ立ち上げに本腰を入れたいとも考えており、ニュースの発行・配付について見直しを考えています。紙面についてのご要望、ご意見をどうぞお寄せください。お待ちしております。

（協会事務局：C.K）